

金城大学短大だより

No.53

平成24年12月10日発行 金城大学短期大学部 白山市笠間町1200番地〒924-8511 Tel.076(276)4411
 URL:<http://www.kinjo.ac.jp/> E-mail:tandai@kinjo.ac.jp



例年より少し早い10月20日・21日の2日間、金城祭が行われました。例年心配される天気も今年は大変に恵まれ、少し汗ばむ程でした。目玉となるメインステージでライブを行うDEEPは事前の問い合わせも多く、今注目され

るアーティストです。時に熱く時にしっとり聞かせるステージに会場は盛り上がりました。両日とも晴天のおかげもあり、多くの来場者があり、最後まで人が途切れることは無く盛況の中無事終わることが出来ました。

平成24年度文部科学省
「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」
通称：産業界ニーズGP (Good Practice) に選ばれました！
今回も、北陸の短期大学では、金城短大だけです。

金城大学短期大学部は、文部科学省の教育支援事業に積極的に挑戦し、選ばれてきた輝かしい実績を持っています。

まず最初は、平成16年にビジネス実務学科が「特色ある大学教育GP (Good Practice)」に北陸で唯一の短大として採択されました。続いて、平成20年には、幼児教育学科が「質の高い大学教育GP」で、同じく北陸で唯一選ばれ、保育の特化教育が大きな成果をあげました。また、平成21年には就職進学指導部が「学生支援推進GP」に申請し、大きな効果が見込める取組として選ばれ、2年後には、優秀取組という評価も得ました。そして、平成22年には、ビジネス実務学科が「就業力育成支援GP」で再び選ばれ、これも大きな成果をあげました。

このような誇るべき取組を基盤に、この度、全学あげての取組を申請し、またまた選ばれたのです。これは、教職員の努力だけでなく、卒業生や学生の皆さんが頑張ってきたからこそ、保護者の方々の理解と支援があったからこそ、このように次々と新しい取組に挑戦できるのだと確信しています。

今回の取組は、全国的なスケールで教育改革が図られようとするものです。日本を8ブロックに分けた大変大きなプロジェクトです。北陸では、福井大学、金沢大学、金沢工業大

学、富山県立大学、富山国際大学の5大学と本学1短大の6校が選ばれました。これら6大学北陸チームは、中部地域大学グループ(23大学;18大学と5短大)に所属し、それぞれの大学・短期大学が、地域の産業界や行政機関と連携した教育を展開していきます。

本学の取組は、3学科における専門教育と、それを支える教職員を対象とした取組で構成されています。これらの取組を推進するために「産学連携人材育成研究会」を設置し、企業・福祉・行政機関などの方々を委員に招いて、これから具体的な運営を行っていきます。

それぞれの取組内容については、次号でご紹介したいと思います。ぜひご期待くださり、本学の取組に深いご理解と温かいご支援をいただきますよう、今後ともよろしくお願ひします。



「産学連携人材育成研究会」を設置し、地域・産業界との連携を強化します。定期的な研究会の開催や連携組織との交流を通じてさまざまな連携プログラムを展開します。

産業界と学生を「つなぐ」教育プロジェクト



「特化教育」リカレント生 「研究発表会」近づく

昨年度より幼児教育学科の新しい事業として導入した既卒者・現職保育者に向けての支援「リカレント教育」が、2年目を迎えました。

文科省による「質の高い大学教育実践」として採択され、「特化教育（乳児保育、障害児保育、音楽、美術）」は、全国レベルでも高い評価を受けています。この事業の発展的なものとして導入した「リカレント教育」は、今年も7名が受講し熱心な学びを展開しています。これらが学生にも好影響をもたらし、とりわけ、障害児保育の保育カンファレンス等では、学生を深い議論へと導いてくれています。各リカレント生は、専門的知見を高め、研究テーマを絞り込み、修了時の「研究発表会」に向けて着々と歩を進めています。

「研究発表会」は、H24年1月24日(木)午後1時開始です。尚、現学生による特化成果発表会は、2月14日(木)を予定しております。

和泉・百海ゼミ 地域課題研究に取り組む

テーマ：わくわくサイエンス～地域社会の教育力を活かした幼児教育～



近年小松市は、幼児から学童までの一貫した教育活動のひとつとして「自然体験・科学体験」を特化し、市全体で理科大好き・ものづくりに参加する人材育成に取り組んでいます。この方針をうけ、本ゼミは、大学コンソーシアムの助成をいただき小松市立第一保育所と共に事業展開をしています。1年生13名、2年生5名計18名がゼミのメンバーです。これまでの活動を2、3紹介してみますと、

8月23日(木)『身近な自然の中にある昆虫観察』

石川県ふれあい昆虫館元館長 富沢章氏を

幼児教育学科 既卒者支援 フォローアップ講座

幼児教育学科の初任一年目の卒業生を対象に、フォローアップ講座を8月26日(日)と9月2日(日)の2日に亘り開きました。今年で3年目となります。卒業し、現場に出て漸く5か月というこの時期、自分の描いていた保育観の違いに戸惑ったり、人間関係で悩んだりと様々な思いを持って多数が集まりました。

9:30～10:30まで「障害児保育」の講義があり、今まさに直面している問題に耳を傾けました。

現場の受講は、学生のときのモチベーションとは格段の差があります。“さらに学んでいきたい”という思いにも繋がりました。

それぞれが抱える悩みを懐かしい先生や仲間話することで、いつの間にか笑顔になり「明日も頑張ろう!」と、帰って行きました。その後ろ姿に教員たちはエールを送り、自らの初任の頃を思い出していました。

お招きし、晴れわたる青空の下、近くの芋畑で虫探しをしました。虫の採集、観察、一緒に昆虫の耳の位置に驚きながら活動を援助しました。

9月18日(火)『里山自然学校こまつ滝ヶ原での虫探し』

当日は雨天、子どもたちは、カッパと長靴で楽しみました。学生たちは、子どもたちの「なぜ?」「すごい!」「おもしろい!」との神秘さや不思議さに迫っていくプロセスに立ち会えました。

10月22日(月)『科学の芽を育てる～水と空気の実験より～』

内容は、A. やじろべえづくり B. コップの中のハンカチはぬれるかな?の実験 C. ジャンボクッションを作ろうでした。

科学的思考の扉をひらく契機ともなりました。

幼児教育学科「就職模擬面接会」開催

幼児教育学科では、2年生を対象に就職に向けて10月11日は私立幼稚園の園長先生や主任先生5名をお迎えして、また10月18日には、保育園園長先生9名をお迎えして模擬面接会を行いました。

11日のグループ面接には93名、18日の個人面接には101名の学生が臨みました。終了後の講評会では、子どもの後ろには、保護者がおられることを忘れない様に、また、先生と呼ばれる職業に就く以上は私生活も正して爪は

短く清潔に、など具体的なお話を頂きました。また、一般常識や社会での出来事の質問に対して弱い、とのご意見や他者との関係の持ち方、人間性を身につける努力をする様アドバイス頂き、とても有意義な会となりました。今後もより一層、社会の要請に応え得る学生を送り出せるよう、適切な就職支援を、行っていきたいと考えております。

なお、専攻科受験の学生に対しては受験のための面接練習や作文指導を行いました。

キャリアデザイン演習 内定者座談会

平成24年11月9日キャリア形成を支援する授業：「キャリアデザイン演習Ⅰ」(1年次)において、先輩からのアドバイス「就職活動を体験して」を実施いたしました。

これは、現在の2年生で、就職先が内定した学生から後輩に向けて就職活動のポイントについて話をしてもらう機会です。

今回は、ホテル業から、金融機関、メーカー、IT企業、サービス業など多彩な業種に内定している6名の2年生が担当してくれました。

話の内容は、

- ・内定企業の概要
- ・内定までの受験回数や活動スケジュール
- ・面接試験や筆記試験の内容
- ・何故その企業を選んだのか
- ・決定に至るまでの親御さんとのやり取り
- ・就職活動で自分が最も気をつけていたこと

など、つい先日まで活動していた先輩からの生の声で語ってもらいました。中には、かなりプライベート

な内容で、就職活動の大変さがわかるものもありましたが、その分1年生にはより印象深く伝わったのではないかと思います。12月から就職活動を迎える1年生にとっては、大変貴重な話ばかりで1時間ほどの時間がとても短く感じる有意義なひと時になったと思います。

次回からは、いよいよ自己分析やエントリーシートの書き方、面接試験への対応方法など具体的な就職活動スキルを修得していくこととなります。今回の経験談の内容を大事に活かして、より良い就職活動につなげていってほしいと思います。



美術学科海外研修旅行

美術学科の海外研修旅行は、2年生30名とともに、9月7日から14日の8日間フランスにて美術鑑賞および現地でのスケッチを行いました。気候は肌寒さを感じる頃でしたが、モンサンミッシェルやルーアンでは観光したあとに町並みを、オーヴェルシュルオワーズではゴッホが最後に過ごした村をそれぞれスケッチしました。パリ市内に戻ってからは、ルーブル美術館、オルセー美術館で名画を鑑



賞し、目の前にした作品は心に深く印象付けられ、充実した研修となりました。

絆と日中友好研修旅行



今年で10回目となる留学生研修旅行(9/5～9/6)。留学生9名+日本人学生7名が参加し、兵庫・大阪方面へ向かいました。

初日は「阪神・淡路大震災」を振り返る「人と防災未来センター」で震災の追体験。大惨事

を振り返るとともに、復興に向かう人々の絆に涙・涙・涙。夜は中華街へ繰り出し中華料理の食べ放題!留学生から日本人学生向けに、中国の食文化についての講話があり、食による日中の絆を実感。食後は意気投合してカラオケタイム。中国語・日本語が飛び交い、歌声による国境を超えた絆も体感し、初日は終了。

翌日は「USJ」を訪れ、笑顔あふれるひと時を過ごしました。笑顔はやはり、絆を深める最大のコミュニケーションツールでした。

今回は日中友好を深める様々な絆を体験することができました。この絆が世界の平和につながりますように。

ホテル&観光ビジネスコース 関西研修

ホテル&観光ビジネスコースでは1年生を対象に9月10日から12日の2泊3日の日程で関西研修を行ってきました。恒例の県外研修では常に新しいこと、新しい場所をテーマに研修内容を考えています。今回は、三都物語というテーマで関西の三都、神戸、京都、大阪を回ってきました。神戸では自分たちの考えた旅行コースを、京都では団体旅行定番のコースを回り、大阪ではザ・リッツカールトン大阪でのホテル研修を行ってきました。学生にとっては世



界レベルのサービスに初めて触れることになるこの研修は、後期の授業へのモチベーションにもつながります。後期からますます専門教育が多くなり、先生方からは意欲的に取り組んでいると聞きます。研修が良い刺激になったことは間違いありません。

大学・短大部 合同防災演習

初めての大・短合同防災演習として避難演習を10月19日に行いました。火災発生を想定し、正午の非常ベルを合図に避難開始し、およそ5分で完了しました。避難場所のアリーナ前広場には大学・短大部学生・教職員およそ1千名が参集し、避難経路を確認しました。



平成23年度 金城学園財務概要

消費収支計算書

(単位：千円)

消費収入の部	
科 目	金 額
学生生徒等納付金	2,409,852
補助金	751,678
その他	176,310
基本金組入額	-150,930
消費収入の部 (合計)	3,186,910

消費支出の部	
科 目	金 額
人件費	2,088,372
教育研究経費	703,727
管理経費	423,476
その他	42,055
消費収入超過額	-70,720
消費支出の部 (合計)	3,186,910

貸借対照表

(単位：千円)

資 産 の 部	
科 目	金 額
固定資産	9,149,626
有形固定資産	8,664,348
その他の固定資産	485,278
流動資産	2,938,037
資産の部 (合計)	12,087,663

負債・基本金・消費収支差額の部	
科 目	金 額
固定負債	1,992,100
流動負債	709,663
基本金	11,258,049
消費収支差額	-1,872,149
負債・基本金・消費収支差額の部 (合計)	12,087,663

平成23年度 金城大学短期大学部後援会決算

(単位：円)

収 入 の 部	
項 目	決 算
会 費	10,935,000
利 子	784
雑 収 入	0
繰 越 金	2,767,763
計	13,703,547

支 出 の 部	
項 目	決 算
学生活動支援補助費	1,169,841
教育活動支援費	1,613,369
就職活動支援費	958,687
クラブ遠征補助費	1,400,000
会 議 費	515,822
通 信 費	125,990
学校美化費	128,864
慶 弔 費	280,000
新 聞 費	357,462
印 刷 費	13,650
広 報 費	287,700
卒業生贈物費	1,444,275
雑 費	17,115
事務費分担費	500,000
予 備 費	0
次年度繰越金	4,890,772
計	13,703,547

平成24年度 金城大学短期大学部後援会役員

会 長	廣 部 欣 也
副 会 長	新 谷 真 志
副 会 長	木 村 伸 一
会 計 監 事	岡 田 順 子
会 計 監 事	西 田 葉 子

美術学科 受賞者

石川県印刷工業組合 (IPIA) イメージポスター
コンペティション (4年連続最優秀賞受賞)

最優秀賞/前田ひかる

(デザイン・映像コース2年)

佳 作/小倉 芳恵・中島亜里沙

(デザイン・映像コース2年)

第39回石川県デザイン展

学生部門奨励賞/熊谷 苑佳・櫻井 揚子

いしかわCGコンテスト2012の入賞者

全てデザイン・映像コース学生

「四季折々」 最優秀賞

宮本 さつき (金城大学短期大学部1年)

「金箔雨の向こう」 優秀賞

北川 茜 (金城大学短期大学部1年)

「おいであそばせ」 入選

浅田 里穂 (金城大学短期大学部1年)

「想」 入選

桜井 優香 (金城大学短期大学部1年)

「ループ」 入選

河嶋 萌子 (金城大学短期大学部2年)

ゼミナール学内団体紹介

■三浦ゼミ



三浦ゼミ
は今年で発
足3年目を
迎えました。
白山市役所、
NPO法人、
幼稚園、保

育園及び各地区と連携して、白山市山間部の地域振興に繋がる活動をしています。具体的には、月に1回のペースで都市部の親子と共に山間部の高齢者を訪問し、季節に応じたイベントを行っています。三浦ゼミの活動は、22年度に地域貢献型学生プロジェクト推進事業、23・24年度に地域連携推進事業に採択され、石川県より助成金を受けています。

発足当初、参加学生は4人だけでしたが、現在では、2年生10人、1年生12人になりました。3年間の活動を通じ、協力関係にある団体や地域も増加してきました。来年度以降もこれまでの蓄積を活かして活動を続けていきたいと思ひます。

■下口ゼミ

ビジネス実務
学科の2年生は
「ゼミナール」の
授業で様々な研
究をしています。
下口ゼミには9



名のメンバーがあり、その内5名が石川県を訪れている外国人旅行者の調査をしています。現在の活動としては、英語のアンケートを作り外国人旅行者がどのような旅程でどんな場所に興味を持って観光をしているのかを調べています。金沢市内の旅館に協力をいただき外国からのお客様にアンケートに答えてもらったり、実際に観光地に行つて生の声を集めたりしています。先日は紅葉が見頃な兼六園に行き、オーストラリアから観光に来ていた親子にインタビューをしてきました。英語での会話は慣れるまで緊張していたようでしたが、ちゃんとコミュニケーションを取ることができたので自信がついたようです。2月には「金城学会」が開かれ、そこで研究発表を行います。他のゼミの学生達も同様、発表に向けそれぞれのテーマについて着々と準備をしているところです。

美術学科 地域美術演習

—いしかわ食のてんこもりフェスタに向けて—

「いしかわ食のてんこもりフェスタ(11月11日(日)に石川県産業展示館で開催)」に向けて「小松の調味料を使ったスイーツ点心」を販売するために小松中華組合青年部と金城大学短期大学部美術学科が共同でブースを出店をしたいと小松市から企画提案があり、小松中華組合青年部はスイーツ点心の開発を行い、美術学科の学生は販売促進ツールを制作することになりました。まず一年生全員でキャラクターデザインを行い、採用されたキャラクター(図1)を元にポスター、ロゴ、グッズ、顔出し看板、四コマ漫画、Tシャツ、手ぬぐい、お皿などを制作。事前説明会、試食会、小松市での取材合宿など、6月から11月までの約5ヶ月間にわたって地域美術演習で取り組んできました。

「いしかわ食のてんこもりフェスタ」では美術学科1年生数名が実際に点心を販売し、自分たちの制作したものを販売するという普段なかなか出来ない貴重な体験をしました。



図1



加賀笠間駅東口駅舎 デザインペイント



白山市から金城大学短期大学部に加賀笠間駅東口駅舎の外壁ペイントの依頼

がありました。美術学科2年生で『社会と美術演習』を受講する28名が、5月末から「美術が社会に貢献できることを考える実習」として、

傷みの激しかった駅舎外観を「街に溶け込み、人々に活力を与え、人々が集う憩いの場」とするデザインを考え、自らペイントし、7月18日についに完成しました。



大学案内・募集要項

<http://telemail.jp>

テレメール/資料請求受付(24時間)

●音声ガイダンスに従って資料番号を入力して下さい。
IP電話 058-8601-0101

●資料請求番号 160794 2~3日程で資料が届きます。
※お急ぎの場合は、本学へ直接ご連絡下さい。

金城大学短期大学部同窓会 <http://www.kinjo-dosokai.jp/>



KINJO

編集後記 震災の影響や、政治・経済の不透明感、本学においては少子化の問題などいろいろありますが、金城祭の盛り上がりなどを見ていると金城は元気いっぱいだと感じさせてくれます。今後も活気ある様子をお伝えしていけたらと思います。(編集担当)